

山梨予備校 令和四年度 入学式 校長あいさつ

山々の緑が一層鮮やかに感じられる、爽やかな季節となりました。本日ここに、山梨予備校令和四年度入学式を実施するにあたり、ご出席の皆様方に深く感謝申し上げます。山梨予備校は長年にわたり数多くの入学生を迎え入れ、大学受験を目指す日々の学習の支援に努めて参りました。今年度も来春の大学入学に向けて皆さんとともに歩めることを、教職員一同、たいへん誇りに思っております。

さて皆さんは、できれば予備校には入学したくなかった、というのが本音かもしれません。そんな皆さんに向かってこの言葉は飲み込んでしまうのですが、私は本心では、「入学おめでとう！」と申し上げたいと思っています。

大学に進学した友だちを見て、自分は人生に遅れをとってしまったのだろうか、来春は合格できるのだろうか、と相当な不安はあるでしょう。しかしそんな中だからこそ、これからの人生を自分を見失うことなく自分らしい流儀で生きていく、そのスタイルを確立することができなのです。不安に過ごす毎日のさなかには気づけなくても、後で振り返って初めて、予備校で過ごした時間が、自分の人生における、かけがえのない、貴重な時間であったことに気づくはずです。

私は一九七八年、今から四十四年前、東京で某予備校に入学しました。高校までと違って、人生を自分の力で切り開き、人生に自ら責任を持つ、予備校時代がその出発点であったと今振り返っています。人生の折々の具体的目標は日々努力を積み重ねる先に実現するのですが、この日々の積み重ねこそが人生の本番、人生の全てです。目先の結果に翻弄されない強い自分を信じて一歩ずつ、ただひたすら一歩ずつ歩み続ける覚悟、この覚悟が大人への道に通じているのです。

ところで私は高校で世界史の授業を担当してきました。生徒は、何年にどこで何が起きた、誰が何をどうした、そんなことを一つ一つ覚えるのですが、全てを覚えて初めて浮かび上がる全体像があります。具体的な内容は受験が終わって忘れてしまっても、覚えたことの痕跡は必ず残り、イメージとして獲得した世界史の全体像は決して消えません。それが心の中の広がりとして残ります。

心の中にこの広がりがあった、私たちは新しいことを学び、新しいことに挑戦できます。この広がりがあった、世界の多様性や無限性に心が開かれていきます。皆さん、受験勉強の大切さを信じてください。勉強を通じて一度馴染んだその世界は、心の広がりとして存在し続け、生きる勇気を与え続けてくれるのです。

私は受験勉強の大切さを訴えながら、どんな形でも皆さんを励まし続けたいと思います。山梨予備校に入学された皆さんの、今日から始まるこれからの毎日が、つらく、厳しいものになろうとも、結果として皆さんの人生におけるかけがえのない、大切な時間となることを心からお祈り申し上げ、あいさつとします。

令和四年四月十四日

山梨予備校 校長 斉木 邦彦